

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

5年 6月 28日

都道府県知事 殿
(市長)

提出者 株式会社 亀田商店
住 所 青森県東津軽郡平内町大字清水川字大川添 76
氏 名 代表取締役 亀田光美
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 017-756-2007

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 亀田商店
事業場の所在地	青森県東津軽郡平内町大字清水川字大川添 76
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	水産食料品製造業
② 事業の規模	8億円
③ 従業員数	40人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1、2の通り



(日本産業規格A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者 社長
廃棄物担当者 工場長

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 再利用できる物については再利用している		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) これまでの取り組みを継続して行う		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物が混ざらないように種類別に容器、場所を分けている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) これまで同様、種類別に容器、場所を分ける。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ホタテ貝殻	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0t	t
	（これまでに実施した取組） 牡蠣養殖施設用に再利用できるよう再生利用業者に委託。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ホタテ貝殻	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0t	t
	（今後実施する予定の取組） 牡蠣養殖施設用、その他再利用に積極的に取り組む。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0t	t
	（今後実施する予定の取組）		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0t	t
	（これまでに実施した取組） 優良処理業者へ委託し適切に処理を行った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0t	t
	（今後実施する予定の取組） これまで同様、優良処理業者へ委託する。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 再生利用できる物は再生利用者へ、その他は 優良処理業者へ委託した。		

(第 5 面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	再生利用できる物は再生利用業者への委託量が増やせる ように業者間の情報収集に努める。 その他は、これまで同様、優良処理業者へ委託し適切に 処理を行ってもらうようにする。		
※事務処理欄			

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

製造フローシート

ボイル帆立(冷蔵)

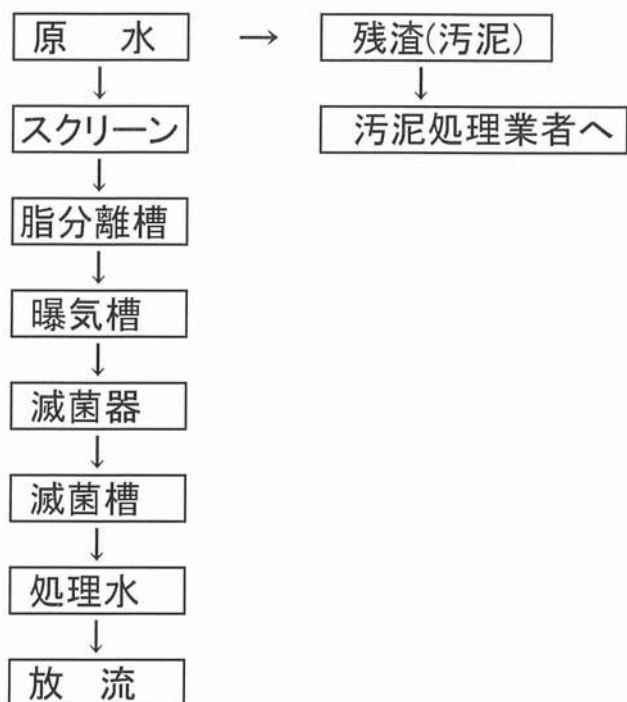
原貝搬入 → ボイル → 脱貝 → 貝肉冷却 → ウロ除去 → 洗浄 → 箱詰

ボイル帆立(冷凍)

原貝搬入 → ボイル → 脱貝 → 貝肉冷却 → ウロ除去 → 洗浄 → 凍結 → 箱詰



廃水処理フローシート



別添 3

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

前年度(4年度)実績

廃棄物の種類	貝殻	ウロ	残渣	汚泥
排出量	1,310t	240.89t	51.38t	5.05t

本年度の計画

廃棄物の種類	貝殻	ウロ	残渣	汚泥
排出量	1,300t	240t	50t	8t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

前年度(4年度)実績

廃棄物の種類	貝殻	ウロ	残渣	汚泥
全処理委託量	1,310t	240.89t	51.38t	5.05t
優良認定処理業者への 処理委託量	1,190t	240.89t	51.38t	5.05t
再生利用業者への 処理委託量	120t	0	0	0

本年度の計画

廃棄物の種類	貝殻	ウロ	残渣	汚泥
全処理委託量	1,300t	240t	50t	8t
優良認定処理業者への 処理委託量	1,100t	240t	50t	8t
再生利用業者への 処理委託量	200t			